令和7年4月14日 第2230回例会
RI第2730地区
宮崎南ロータリークラブ 週報

ロータリーのマジック
ステファニー A. アーチック
2024-25年度RI会長

変化を楽しみ、さらにロータリーの価値を高めよう！

4月の月間
環境月間

本日の例会プログラム　第2231回例会　令和7年4月21日
・会員卓話　中原 捷博 会員
　　日高 章智 会員

会長挨拶　大迫雅浩会長

皆さん、こんにちは。

まずはじめに、本日のビジターのご紹介をさせていただきます。本日は２名です。まず最初に宮崎アカデミーＲＣより水居徹さまです。そして本日はもう一名、タイからのお客さまです。ZONE10、国際ロータリー第3360地区チェンマイ北ロータリークラブより富田紋子さまが来られています。紋子さんは、チェンマイ在住。これまでも国際奉仕、タイの事業では様々なご助力をいただいており、コロナ禍においてはエムワリーさんのオンライン卓話のセッティング、先日の50周年の時のタイでのセレモニー当日の通訳をはじめ、現地での私たちのガイド役もしていただきました。本日は、後ほど卓話もいただく予定になっています。皆さん、ようこそ当クラブの例会へ。心より歓迎申し上げます。本日はゆっくりとお過ごしください。

先週は、会長幹事会と当クラブのスポンサークラブである宮崎西ロータリークラブの65周年に参加して参りました。会長幹事会も、同志というか同じ立場の皆さんばかりの会で、ようやく打ち解けてきた頃には、任期満了となり、年度によっては終了後にも長らく同期会があるのも理解できるような気がします。最終の幹事クラブが高鍋ロータリークラブになりますが、和田会長のご挨拶のなかに、私が前回の挨拶の際にお話した「中堅こそ、今一度初心に戻ってロータリーのことを色々と勉強すべき」と、同じようなことをお話されておりました。「やり残した感があり、少しは理解できた感もあり、もう半年くらいしたいなぁ」というコメントと、時代と共にロータリーの在り方も変わる、こんな気持ちになれたからこそ、気づいた我々で、これからは中心となって推進していくべきなのだ! と熱く語れていました。（あ、くれぐれも私も延長したい! という話ではありませんからね!!）

会長幹事会は宮崎中部グループ10クラブ。折角できたご縁ですし、他のクラブのやり方や工夫なども、経験したり伺ったりもできましたので、また色々とクラブ内に還元してゆけたらと思っています。

また、宮崎西ロータリークラブの65周年では、来賓はその親クラブである宮崎ロータリークラブの会長・幹事と、子クラブの会長である私の３人だけでしたが、当初は先日出席した宮崎ロータリーのようなピリッとした感じかと思い緊張していましたが、当クラブ同様になんとなくアットホームな雰囲気を感じました。式典では、職業奉仕賞と国際奉仕賞「サミット賞」の授与式がありました。職業奉仕賞はＤＪ ＰＯＣＫＹ（坂元誠一）さん。アメリカから帰国し宮崎のＤＪ文化を根付かせて、今年40周年を迎えるそうです。

そしてサミット賞は国際奉仕をした個人に贈られる賞で、小松孝英さんが受賞されました。私も友人でもありますが、宮崎出身の新進の若手の画家であり、映画監督であり、アーティストです。主に蝶々の絵を主体にした画家でしたが、延岡市役所新庁舎の壁画を描いたり、台湾で活躍した宮崎出身の、画家の塩月桃甫さんや

出席委員会報告　島田博良委員長

●出席状況

日 状 況	
会員数	58名
本日出席者数	38名
本日欠席者数	20名
出席率	65.52%

前々回修正出席状況	
メークアップ数	0名
修正出席率	63.16%
メークアップされた方（敬称略）	

ニコニコBOX		
	1件	1,000円
	累計	73,000円

募金箱	
	6,179円
累計	164,218円

太陽銀行前身の宮崎相互銀行の第二代社長、小説家の中村地平さんのドキュメンタリー映画を制作した青年です。

祝賀会の部では、宮崎学園合唱部やジャズ演奏などもあり、当クラブ同様に終始なごやかでアットホームな雰囲気でした。若手も多く「親睦」を大事にしているそうです。私は子クラブ代表として乾杯のご挨拶をさせていただきました。

会長職を拝命し、地区内外の色々なクラブの会長とお話する機会も増えましたが、本質は変わらないものの、やはりクラブによってやり方も雰囲気も全然違います。最初の一歩が出にくいですが、やはりメイクアップはせめて中部グループ内の色々なクラブに顔を出したり、県内外の出張の際は直接または事務局を経由して、その土地のクラブにできるだけお邪魔するのがいいと感じました。と、いうかそれが基本で、「サインのみ」はあくまでも救済手段なのです。今年は島田委員長が出席委員長ですので、声をかければ可能な限りお付き合いいただけると思いますから、ぜひ最初の一歩を踏み出してみてください。

結びとなりますが、先日の会長挨拶の中で、「概ね、主要なイベントは終わった」と申し上げましたが、もう一つ残っておりました。この後、ご案内があると思いますが、「ロータリー奉仕デー」の主幹が残っています。昨年11月17日に当クラブが主幹してシェラトンで実施したＩＭの時同様に、ガバナー補佐を輩出している当クラブが主幹として段取りすることになります。先日の理事会の際、田中靖彦社会奉仕委員長が実行委員長に指名されました。当クラブが企画・運営をしなくてはなりませんので、また皆さんのご協力のほどよろしくお願いします。

さぁ　今日は、新しい週のはじまりです！

上機嫌で!!　楽しく１週間を過ごしましょう!!!

ビジター紹介

水居　徹会員（宮崎アカデミーRC）
富田　紋子会員（チェンマイ北RC）

幹事報告

大浦秀幸幹事

本日の幹事報告は２点ございます。

１．日野郁子会員から体調があまり良くないので退会届が出てまして、４月７日の理事会で退会の承認が得られましたので残念ではありますが退会する運びとなりました。よって会員数は58名となりました。

２．本日、BOXの中にポールハリス・フェローのバッジが入ってたと思いますが、創立50周年記念で5,000円の全員登録をしていただいた分です。ご協力ありがとうございました。請求書の明細にR財団5,000円と記載されているのでご確認ください。なお、バッジの輪郭に青い小さな石が１個入っている方は２回目の登録、２個入っている方は３回目の登録、石が入っていない方は初めて登録をされた方ということです。

ニコニコBOX

村野　裕会員

50周年多大なご協力頂き有難うございました。３月29日～３月30日に年末家族懇親会にてクラブより頂きました。シェラトン宿泊券にて家族サービスが出来ました。有難うございました。

会員卓話

菊池武英会員

私たちは物心ついたころから家庭で、学校で、宗教施設で、スポーツクラブで、先輩、同僚、あるいは書物などからいろいろの機会に、勿論ロータリーでも人間いかに生きるか、いかにあるべきか、所謂道徳、美徳について教えられ学びます。儒教的に言えば五常や八徳、仁、義、礼、智、信、忠、考、梯、平たく言えば慈愛、誠実、信頼、忍耐、我慢、協調、勇気、友情、共感、正直などなどいろんな言葉で語られます。

私もロータリー入会以来最も感化されたのは、四つのテスト、これが素晴らしいという想いは年とともに深まっています。初めは職業奉仕の理念として採用されたそうですが、今ではロータリーの奉仕の神髄、不可欠のものとなっていると思っています。

1932年、破綻寸前の会社の再生を託された、ハーバード・J・テイラーが会社再生の倫理的価値観の目安となる簡潔な指針として作成したものとのこと、1943年RIに採用登録されロータリー

50周年の時、RI会長になっていたハーバート・J・テイラーがその著作権をロータリーへ譲渡したとのことです。

ロータリー歴だけは長くなっても一向に人間的成長の見られない私ですが、今後とも４つのテストの拳々服膺を心がけていきたいと思っております。

ゲスト卓話

富田紋子会員（タイ・チェンマイ北RC）

皆さんこんにちは。国際ロータリー3360地区、タイ北部にありますチェンマイ北RCに所属しております、富田紋子です。今年度はガバナー補佐もさせていただいております。

まず初めに宮崎南RCさん、50周年おめでとうございます。チェンマイ北も今年は45周年を迎え、グローバルグラウントを行おうと今粛々と準備中です。

私は生まれは兵庫県姫路市、幼少期は京都、大阪、宝塚に住んでおり生粋の関西人で関西に20年、タイに27年滞在しています。

今日このような場をいただけたことに感謝しています。どんなお話をさせていただこうか考えましたが、私を含め皆さんロータリアンで、奉仕の心をお持ちの方ばかりですので、タイにおける奉仕、または支援についてお話しさせていただこうと思います。

いろいろ例をあげてお話しさせていただければ良いのでしょうが、あまり時間もありませんので1つだけお話しさせていただきます。

私は昔、チェンマイ大学の大学院に通っておりました。その時、ボランティアの一環で毎年山の貧しい村に古着を持っていく学生グループがありました。学生はお金がないのでそんなにたいそうなことはできません。それでも社会の一員である以上、人の役に立ちたい、人に喜ばれることをしたい、という一心でした。そこで考えついたのが古着の寄付でした。お金がなくても古着なら自分や友達、親兄弟から集められます。そうやって集めたものを毎年村に運んでいました。私も誘われたので何年前か寄付し、一緒に村へも行きました。

彼らのこうした行いは、側から見るととても良いことのように思えます。実際私もそう思っていました。

しかし村について村人に話を聞くというこう言いました。「また服？服はもういらないよ、毛布が欲しい、毛布はないの？」

これは一体どういうことでしょうか？

１つは「学生達は村の人たちが本当に必要としているものを調査していなかった」ということです。彼らが何を必要としているのかも考えず、確認せず、自分たちがしたいことをしていた、いわば親切の押し売りです。人のためではなく、自分の自己満足、優越感のための支援をしていたということです。

もう一つ、もし学生達がちゃんと事前に村人達に必要なものを調査していても、このような支援の方法だと、「次は靴下が欲しい、ズボンが欲しい、毛布が欲しい」とだんだんエスカレートしてくるでしょう。なぜなら村人達は学生に言えば持ってきてくれると学んだから。

これでは学生達はどんどん負担になり、いずれボランティアをやめてしまいます。そしてもらい慣れた村人達は、自分達でなんとかしようという気持ちにならないかもしれません。学生達の行為は、村人達の自立心を損ねてしまう可能性もあったということです。これは良い支援だとは言えません。「魚を与えるのではなく、魚の釣り方を教える」という言葉があります。魚を与えるのは簡単ですが、一時凌ぎの支援にしかならず、また一度始めると際限なく与え続けなければならなくなる可能性もあります。

学生たちの支援の方法はまさに「魚を与える」支援でした。

そうではなく、魚の釣り方を教えれば、自分達で今後魚を取って食べるということができます。ただし教えるのにとても時間がかかります。

私の知り合いに、魚の釣り方を教える支援をしている団体があります。ストリートチルドレンへの支援団体です。ストリートチルドレンというのは路上で生活する子ども達のことで、両親がいなかったり、いてもDVで家を飛び出してきたり、さまざまな環境下にあります。家もあって親もいるけど、夜には繁華街に出て花を売ったり、物乞いをしたり、売春行為をしている子どももいます。

その支援団体は、かわいそうだからとお金や

物をあげたりはしません。そして彼らのそういった行為に、「危ないからやめなさい」ということもありません。なぜなら子ども達がそのようなことをするのには生きていくための理由があることを知っているからです。自分たちの視点でかわいそうだから、という理由で一時凌ぎの支援をしても、彼らの心には響かない、また同じ行為を繰り返すことを知っているからです。

彼らの支援方法は、夜の街に出て子ども達にどんな生活をしているのか、何を売っているのかなど話をします。何度も何度も出向いて話をすることで子ども達から信頼を得てから、今度みんなでゲームをするから遊びにおいでと声をかけます。そしてゲームを通して子ども達の今の生活で起こりうる危機について教え、考えさせて、理解させるのです。

例えばすごろくをして、出た目のところに行くと「観光客に『美味しいお菓子がいっぱいあるから僕のホテルに遊びにおいで』と言われた。どうする？」というようなことが書いてあります。みなさんならどうしますか？「行く!」という人もいるでしょう、だってお菓子欲しいもんって。そう答える子には次に「もし見知らぬ観光客の部屋に行ったらどんな危険があると思う？」と聞きます。例えば人身売買に加担させられるかもしれない、麻薬を飲まされて麻薬漬けにされるかもしれない、性的暴行を受けて性病にかかるかもしれない…。

こういったことをみんなで意見を出し合い、みんなで学びます。そうか、そういうふうに声をかけられても行かない方がいいな、と子どもが感じ、学べば彼らの危険は減ります。

どうしてそういう支援の仕方をしているかというと、私たちがどれだけ何かをしてあげても、結局のところ自分の人生を切り開くのは子ども達だからです。

いつまでも物をあげる支援は続けていられません。彼らが自立する手助けをするのが使命だと理解しているからです。

これは「魚の釣り方を教える」支援方法といえます。

残念ながらロータリーのなかでも、少しばかり値のはるものを村に寄贈して、写真を撮って終わりという奉仕が多々見受けられます。私は日本国内の奉仕活動を知らないので分かりませんが、グローバルグラントを含め、タイではそういった活動もないとは言えません。

本来持続可能な社会を目指すのであれば、物を与えるのではなく、人を育てることこそが良い奉仕、良い支援だと私は考えています。

そんな中、まさに「魚の釣り方を教えた」そして人を育てた素晴らしい国際奉仕があったので紹介したいと思います。

チェンマイ県オムゴイ郡の僻地の高校生が、将来看護師になって村の人たちを助けたい、と言っていました。ただその学費が出せない、学費を援助してもらいたい、という彼女の要望に4年間の奨学金を出資したプロジェクトです。

みなさんご存知の、宮崎南RCさんが行った国際奉仕で、チェンマイ北も少しだけお手伝いさせていただきました。

４年間の奨学金さえ出してあげれば、あとは彼女が看護師となり、彼女自身が村を良くしていく、村の出身者が自分の村を自立させていくのです。私たちが追加であれこれ支援しなくても…。このプロジェクトはそのお手伝いをした、まさに「魚の釣り方を教える」支援だったと思います。

残念ながら彼女が卒業した時、地元の病院では看護師の募集がなかったため、今はまだ３年契約で市内の病院で働いていますが、さまざまな知識を身につけ、たくましく成長しています。いつか彼女が地元の病院へ戻る日を私も心待ちにしています。

４つのテストで「みんなのためになるか」とありますが、その「みんな」が支援する側のロータリアンのことだけにならず、される側のためになっているかを見極め、決して自己満足にならず、今やろうとしていることが「魚を与える」行為か、「魚の釣り方を教える」行為かを常に考え、今後もまた素晴らしい奉仕活動を続けていただきたいと思います。

ご清聴ありがとうございました。

宮崎南ロータリークラブ

事務局　〒880-0806 宮崎市広島1丁目3-3 秀豊ビル4階
TEL. 0985-22-6767　FAX. 0985-22-9170
HP：http://mm-rc.sakura.ne.jp/　e-mail：m.m-rc@alto.ocn.ne.jp

例会場　宮崎観光ホテル（毎週月曜日　12:30～13:30 開催）
〒880-8512　宮崎市松山1-1-1
TEL. 0985-27-1212